

やっときゃよかった、やってよかった防災式

防災には「地域コミュニティカ」が必要と言われています。その意味が、理解できた上で「必要だ」と啓発されているのでしょうか？



今回は、なぜ「地域コミュニティカ」が防災に必要なのか「**祭り**と**防災訓練**」を通して考えていきます。

◆シリーズ「あなたならどうする？」パート8

全国各地で東日本大震災以降、活発に防災訓練が行われているようです。当然、あれだけの「巨大地震と巨大津波」を目の当たりにすれば、防災・減災の必要性を感じるに違いありません。しかし、「巨大地震と巨大津波」による災害は、今日に始まったわけではありません。過去の歴史を紐解けば、何度も何度も繰り返し、同じような災害に我々人間は襲われ多くの命を亡くしています。にもかかわらず、人間という生き物は大切なことなのに忘れてしまう。そして、忘れた頃に災害はやってくるのです。その度に多くの大切な命が消えてしまっても、忘れ去られ、そして次の世代に「**備えの大切さ**」をキッチリと言い伝えられない。一時的に高まった防災意識も、時間の経過と共に災害への備えが薄くなり、いつの間にか消滅しています。痛ましい2年前の東日本大震災ですら、のど元を過ぎかかっている。阪神・淡路大震災においては、歴史のひとつになってしまっている状況です。



何故！災害の伝承はできないのだろう。実際のところ防災とは、何をすべきか判らない人が多すぎるのです。それは「**備えの定義**」が、示されていないからで、守るべき対象を漠然とさせてしまっているからだだろうと思われます。では「**備えの定義**」とは何？

我々が思う防災とは「**自分の大切な人を守ること**」であり、その為に自分も死んではいけない。このことに気が付いていない人が防災を語るから、どの時代に於いても「**やっかいなこと**」が起こるのだろう。「**やっかいなこと**」とは？「**自分たちのまちは自分たちで守ろう**」等と最初から「他人任せを誘発させる活動」をさせてしまうことです。言い換えれば、「自分の命」「自分の大切な人の命」をも、他人に丸投げする活動に主眼を置いてしまうからなのです。だから防災・減災活動が継続しないのです。

ところが「**祭り**」はどうかと考えれば、何百年、何千年前から脈々と受け継がれ、次の世代に引き継がれていて、多くの人々が参加している。起源が平安時代以前とされる長野・諏訪大社の御柱祭や鎌倉時代から続

く京都・下鴨神社の御蔭祭等、多くの「祭り」が毎年毎年、キッチリと手法や作法など事細かに受け継がれ開催されています。祭りでは、危険と隣り合わせにもかかわらず、喜んで参加し、しんどい役目や仕事も笑顔でこなすという不思議な行動が見受けられます。何故だろう？元々は、神様への祈りを捧げるために始まったのが「祭り」。でも、現在は地域交流のためのものとして開催されていることが多いのです。



「祭り」は、**多くの人を引きつける魅力**があります。屋台で美味しいものや楽しいゲーム、子供達がワイワイ遊ぶ姿を見たりするのは本当に心から楽しく思えます。

「祭り」は日常やっていることとは、少し違うから人が興味をもって集まるのでしょうか。珍しいものには、何でも興味が湧くのです。そういった魅力が「祭り」にはあるのだと思います。いつもと違うから、人を引きつけるポイントになるのです。さらに「祭り」に参加すれば



過去から現在そして未来についての情報を「共有できる仲間」がいるのです。地域での祭りは、年齢が近いと同じ学校の出身者が多く年齢がすこし離れていても、同じ地域で暮らしている仲間だからこそ、言葉には出さなくとも連帯感というか、共有できる何かが存在するのだらうと思います。この『**共有できる仲間がいる**』というのは、本当に嬉しく、心強いものです。



年に一度、顔を合わせる人もいる「**今日も暑いねえ**」「**熱中症に気をつけてくださいね**」「**大きくなったねえ**」「**就職しました**」「**来年結婚します**」「**子供ができたの？可愛いねえ**」。こんな他愛も無い会話をするだけでも嬉しくなります。「**自分と他者が情報を共有できる**」こういうコミュニティは、いつの時代に於いても「**人が集まりやすい**」のです。それは「**楽しく**」をキーワードにしているからです。楽しいと次回が待ち遠しくなります。そうすれば永年と継続できるのです。

ならば、この方式を防災に生かさない手はない。いくら素晴らしい防災活動でも、**堅苦しく眉間にシワを寄せた継続しない防災活動より、笑顔で楽しい継続可能な次世代に引き継げる防災活動**を考えては！そして、みんなで他人の言葉に惑わされずに、地域でのオリジナル防災活動をしよう！そうすれば、次の災害が発生しても、きっと多くの人々の備えで安心できるはずです。

ではどんなことをすれば良いのか？「**それはあなた自身が学び考える**」そして、それを始めるのはいつなのか？「**今でしょう！**」今回の防災式は「**情報を共有できる仲間を作ろう**」。それが地域コミュニティカであり、防災力です。あなたも、今この瞬間から始めましょう。